

8月1日 都市消防委員会（田口一登議員・さしあこ議員）

# リニアを中心にした名古屋駅周辺交通基盤整備方針（案） 鉄道事業で機能増強があれば応分の負担を求める

8月1日の都市消防委員会で、名古屋駅周辺交通基盤整備方針（案）について説明がありました。名古屋市はリニア開業後のまちを見すえた取り組みとして「名古屋駅周辺まちづくり構想」を2014年9月に策定し、その具体化にむけて10の主要プロジェクトを進めています。そのうちの7つのプロジェクトをまとめた形として今回の整備方針案が示されました。

## ターミナルスクエアとして乗換の円滑化やバリアフリー

当局からは、世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤを目指してのプロジェクトを進めており、乗り換え空間などについて取りまとめた説明がありました。

多くの人があることを前提にアクセシビリティやわかりやすさを検討した結果、鉄道や高速道路、一般道路などのアクセスの整備とともに、結節機能強化としてのターミナルスクエアを5か所に、東西通路や駅前広場、バスターミナルなどの整備方針を、ユニバーサルデザインや安心安全なども含めて検討してきたとのこと。

- ### 名古屋駅周辺まちづくり構想の主なプロジェクト
- ①都市機能の強化
  - ②リニア駅周辺の面的整備
  - ③わかりやすい乗換空間の形成
  - ④駅前広場周辺の再整備
  - ⑤東西ネットワークの強化
  - ⑥名鉄名駅再開発計画
  - ⑦高速道路とのアクセシビリティの向上
  - ⑧地区毎の特色を活かしたまちづくり
  - ⑨名駅通の歩行者空間の拡充・駅へのアクセシビリティの改善
  - ⑩ゆとりのある地下歩行者空間の形成

## 鉄道事業者には応分の負担を

さしあこ議員は整備事業費に関する鉄道事業者との負担割合についてたずねました。「2月議会では、鉄道事業者の施設の改変等が必要になってくるので、機能が強化される部分は事業者負担を求めていくと答弁していたが、今回の交通基盤整備方針（案）について協議する中で事業者側で負担を求めたのか」と改めて確認しました。当局は「公共空間には一定の負担をしていくが、鉄道機能の強化には鉄道事業者に負担を求める姿勢で協議調整を進めている」と答えました。

## 車の流入や高速道路にこだわり

住宅都市局の説明では、鉄道ネットワークの強化を進める一方で、自動車の呼び込みを招き渋滞や大気汚染を悪化させる自動車ネットワークの強化も提案しています。

他会派の議員からは、「法的根拠のない負担を要求して内部留保歩吐き出させるような強権的なことのないように」とか「スケジュール感をもって」などの意見や防災体制の取り組みへの疑問がありました。また「アラブの大富豪がリムジンで都心へいく名古屋になるのに、高速アクセスも太閤一丁目の交差点の渋滞でスムーズに通れないのは恥ずかしい。横断歩道の歩行者に影響されない近未来のデザインで交差点を作れ」「民間開発促進のために容積率の緩和を」等の意見がありました。

## 10月に方針策定・公表

今回説明された「整備方針（案）」は、今後、8月19日にシンポジウムを開催し、9月19日まで市民意見を募集、10月には整備方針が策定・公表される予定です。

